

山形県感染症発生情報

第19週(平成21年5月4日～平成21年5月10日)

疾患名	報告数	増減	特記事項
(小児科定点 30)			
RSウイルス感染症	0		
咽頭結膜熱	2	▽	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	57	▽	多発中
感染性胃腸炎	232	▽	多発中
水痘	39	▽	
手足口病	0		
伝染性紅斑	1	▽	
突発性発しん	13	▽	
百日咳	0	▽	
ヘルパンギーナ	0	▽	
流行性耳下腺炎	60	▲	多発中
(インフルエンザ定点 48)			
インフルエンザ	80	▼	多発中
(眼科定点 8)			
急性出血性結膜炎	0		
流行性角結膜炎	2		
(基幹定点 10)			
クラミジア肺炎	0		
細菌性髄膜炎	0		
マイコプラズマ肺炎	8	▲	
無菌性髄膜炎	2	△	

(▲:2週連続増加、△:今週増加、▼:2週連続減少、▽:今週減少、多発中:報告数50名以上)

疾患名	報告数			累積報告数 (*2009年1月～)	
	第19週	1週前	2週前		
2類感染症	結核	2	7	5	74
3類感染症	コレラ	0	0	0	0
	細菌性赤痢	0	0	0	1
	腸管出血性大腸菌感染症	0	0	0	6
	バラチフス	0	0	0	0
4,5類感染症	E型肝炎	0	0	0	0
	A型肝炎	0	0	0	0
	オウム病	0	0	0	0
	つつが虫病	2	0	0	2
	ライム病	0	0	0	0
	レジオネラ症	0	0	0	2
	アメーバ赤痢	0	0	0	0
	ウイルス性肝炎	0	0	0	0
	急性脳炎	0	0	0	2
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	1
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	0	0
	後天性免疫不全症候群	0	0	0	1
	ジアルジア症	0	0	0	2
	髄膜炎 菌性髄膜炎	0	0	0	0
	梅毒	0	0	0	0
	破傷風	0	0	0	0
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	0
	風しん	0	0	0	0
	麻しん	0	1	1	5

◎祝日のため休診した医療機関が多く、ほとんどの疾患で患者報告数が減少した。

1 インフルエンザは、前週の約3割まで減少した。今シーズンの累積報告数は19,082人となり、過去10年間で最も多い。

迅速キットによる陽性例では、B型が多く検出されている。手洗い、うがいの励行、マスクの着用など予防対策が重要である。

2 感染性胃腸炎は、県全体の報告数は前週の約7割まで減少したが、最上地区では増加している。村山・庄内地区で定点当たり報告数が多い。

患者は1歳をピークに、小児が中心。ヒトからヒトへの感染力が強いいため、感染者の吐物や便の処理には十分注意するとともに、手洗いの徹底が重要。

3 流行性耳下腺炎は、村山地区で前週の約2倍に増加した。特に、天童地区で流行している(定点当たり報告数 8.5)。患者は4歳をピークに、2～6歳が中心。

4 無菌性髄膜炎の患者が、庄内地区から2名報告された。(うち1名の鼻腔粘液からインフルエンザウイルスB型抗原検出)

5 結核の患者が、村山地区から1名(東南村山 1)、庄内地区から1名(田川 1)報告された。

6 つつが虫の患者が、庄内地区から2名(飽海 2)報告された。農作業や山菜取りなどで田畑、山林、やぶ等に立ち入る際には、素肌を露出させない、ダニ忌避剤を衣服に散布するなどの自衛手段をとる必要がある。

(5月12日現在 山形県衛生研究所)